

旧長若小学校利活用に関するパネル展示による説明会【開催記録】

1. 開催期間

令和8年8月23日（日）～8月27日（木）

役場開庁時間内（職員配置は10：00～15：00まで）

2. 開催場所

小鹿野町役場1階町民ラウンジ

3. 来場者

町民：計20名（このうち職員配置時間内来場者は18名）

内 訳

小鹿野 10名

長 若 6名

三田川 0名

倉 尾 0名

両 神 3名

町 外 1名

※小鹿野町行政区設置規則に基づく区分け

4. 意見等と回答

意見等	・各区の集会所として活用できればよいかな？ （他の閉校小中学校の未活用のものを含む） ・学童保育所としての活用 ・老人介護施設の増設により増加する高齢者に対応
回答	・町としては、公募により事業者の募集を考えており、町が集会所として活用することは、既存施設が現存すること、利用する町民の居住範囲なども考慮・調整する必要があり、現時点では考えておりません。 ・子どもの学童や老人の介護施設などの事業展開については、運営を希望する事業者からのご提案があった際には、ご意見を考慮したいと思います。

意見等	・旧長若小学校を宅地分譲の代替として、校舎の教室の一部を書く入居者の居室や、各部屋を在宅ワーク、交流の場として活用する。 ・グラウンド平米数（約3600㎡）の一部の遊具に支障があるが、80坪10区画を造成し、宅地として整備し、
-----	--

利活用する。(遊具は修繕し、利用)

- ・既存の駐車場は校舎の一部に入居した住民との交流で訪れた来客用駐車場として利用。

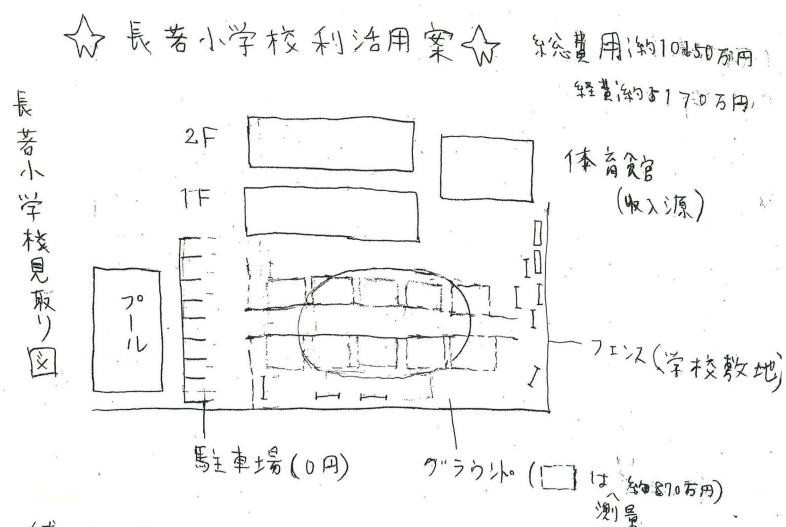
- ・体育館は普通に貸出し。プールは災害時用貯水池として利用。長若地区には防火水槽しかないため。

- ・詳細は資料参照。

※以下が添付されていた資料のため掲載します。

個人情報に係ると思われる部分は除いています。

文字が薄かった為、濃く加工しています。



使い方 (宅地分譲の場合)

- ① 校舎 1、2F の各教室を 入居者の居室、在宅ワーク、交流の場、各部屋、遊び場などとし、修繕費など計
(1Fは1F入居者、2Fは2F入居者) → 約866万～5000万円
- ② 遊具等が残るグラウンドをそのまま公園として利用。
0円
- ③ ①の場合で増宅する場合、グラウンドの□を住宅とする。
その場合遊具等に支障がないようにし、住宅と公園の確保。
→ 修繕費、20万～50万円程度
- ④ 駐車場はそのまま入居者の駐車場となる。
- ⑤ 体育館は普通に貸出。※プールは、災害時用貯水池として利活用。

	廃校広域特別調査委員会資料 【長若グラウンド宅地分譲数値】 ※不動産会社基準数値(令和8年 8 月 21 日) 旧長若中学校校庭で行なった時の想定費用 (坪単価;5万の場合) グラウンド平米数;9876 m²のうち約 3740 m²を分譲。 宅地80坪×10 区画800坪。開発;5m100。全体坪数;950 坪。 <工事経費土地整備予算(全て含む);5195 万> ・10 区画売れた場合;4000万の収入 (1区画;400万) (予算)5195 万-(総売上)4000 万=赤字(全体)1195 万 (1区画の赤字 119, 5 万) ・5 区画売れた場合;2000 万の収入 (予算)5195 万-(総売上)2000 万=赤字(全体)3195 万。 <工事経費土地整備額(全て含む);5170 万の場合> ・10 区画売れた場合 (実際額)5170 万-(総売上)4000 万=赤字(全体)1170 万 (1区画の赤字 117 万) ・5 区画売れた場合 (実際額)5170 万-(総売上)2000 万=赤字(全体)3170 万 (1区画の赤字 317 万) 【旧長若小学校校活用と宅地分譲数値】 旧長若小学校校舎、校庭を利活用(代答案)で行なった時の想定費用 (坪単価;5万円) 公共事業;約 866 万~5000 万。(一部教室を部屋へ改修、その他配管設備等) 1F は 1F の入居者、2F は 2F の入居者とする事により混雑や混乱を解消。 グラウンド平米数;3999 m²のうち約 3600 m²(一部遊具含む)を分譲。 宅地 80 坪×10 区画 800 坪。開発;5m。全体坪数;900 坪。 <工事経費土地整備予算(全て含む);5170 万> ・10 区画売れた場合;4000 万の収入 (1区画;400 万) (予算)5170 万-(総売上)4000 万=赤字(全体)1170 万 (1区画の赤字 117 万) ・5 区画売れた場合;2000 万の収入 (予算)5170 万-(総売上)2000 万=赤字(全体)3170 万 (1区画の赤字 317 万) <工事経費土地整備額(全て含む);5150 万の場合> ・10 区画売れた場合 (実際額)5150 万-(総売上)4000 万=赤字(全体)1150 万 (1区画の赤字 115 万) ・5 区画売れた場合 (実際額)5150 万-(総売上)2000 万=赤字(全体)3150 万 (1区画の赤字 315 万) <校舎一部改修費と利活用収入費、宅地分譲売上額と総合経費> (改修費予算)5000 万+(整備予算)5170 万=(総合経費)10170 万 (改修費予算)5000 万+(整備額)5150 万=(総合経費)10150 万 校舎利活用収入;3260 万+分譲収入;4000 万=総合収入;7260 万 校舎利活用収入;3260 万+分譲収入;2000 万=総合収入;5260 万 (総合経費)10170 万-(総合収入)7260 万=赤字(全体)2910 万 (総合経費)10150 万-(総合収入)7260 万=赤字(全体)2890 万 (総合経費)10150 万-(総合収入)5260 万=赤字(全体)4890 万 (※いづれも補助金、交付金などを除く) 町民と行政の 意見交換 理想として ありたい姿 ・旧三田川中学校校舎は敷地が狭いため、厳選し、企業誘致 (秩父郡市に限らず幅広く募集)
回答	・旧長若小学校について ご意見が多岐にわたるので切り分けて回答します。 前提として旧長若小学校は、創りの場として想定し、公募により事業者の募集を考えております。 ①ご提案の利用方法について町が直接行うことは考えておりません。よって、現況有姿での公募を考えているところです。公募の際に事業者からご意見のようなご提案があればご意見を参考にしたいと考えます。 ②旧長若小学校グラウンドの宅地開発についても同様に町が直接行うことは考えておりません。 ③遊具について、活用できる事業者提案があれば、ご意見

	を考慮したいと考えています。 ④プールを防災用貯水池として活用する意見については、現在、比較的水がきれいなものの、防火水槽と異なり開放型で、日差しにより藻が増加し、消防水利として利用できなくなる（吸管がつまる）ことや、虫がわくなどの問題が生じます。活用する場合は、定期的な水の入れ替えによる管理が必要です。しかし、プールの容量を入れ替える水道代は、高額となり、年に何度も実施できるものではありません。現在の水がきれいな段階ではそのままに、水質の悪化が生じた場合には周囲の衛生環境も鑑みて地区の区長様や消防団等へ説明し、水を抜いての管理へと切り替えていく方針で考えています。 ⑤分譲に係る経費の比較計算（資料の内容）については、小学校校舎の建物改装費用の積算の幅が広く曖昧であり、比較検証や検討が困難であると判断いたしました。 ⑥旧三田川中学校校舎へのご意見についてですが、校舎は今年も行われた花火大会で大いに活用されました。今後の展開も注視しながら、検討をしているところです。まずは旧長若小学校の活用について考えていきたいと思っております。
--	--

意見等	・旧長若小学校には遊具もあるので、旧長若中学校より住宅地として適しているのではないかと旧長若中学校のグラウンドは避難場所や運動場として維持してもらいたい。 ・役場に掲示してあるおがのまち（シティプロモーション）を取り下げて欲しい。秘境へという発想に2500万もかけてやるのか？秘境だからバスもなくし、学校もなくしていいのか？ 別のアイデアを発展することを考えないのはおかしい。プロジェクトは取り下げ、役場の掲示のおがのまちは町長が買い取ってほしい。 発展するアイデアが考えられ、実行されれば別ですが。小鹿野町 PR 活動金賞は不名誉です。
回答	・旧長若小学校の遊具については活用し、広く町民へ開放するような提案の採用を積極的に考えていきます。 ・タウンミーティングでのご意見もあり、旧長若中学校のグラウンドのうち宅地分譲対象外の敷地を活用し、避難訓練を実施いたしました。小鹿野町も事業内容を見直して来

	ております。何卒ご理解賜れればと存じます。 ・シティプロモーション事業に係るご意見につきましては、関係箇所へ共有いたします。
--	---

意見等	・廃校となった施設を利活用するのは当然町として必要なことであるため賛成します。小鹿野町がいつまでも存続していけるよう頑張ってください。
回答	・持続可能なまちづくりのため、各種計画との整合性も図りながら、発展・活性化に寄与する取組を進めて参ります。

意見等	・企業誘致にあたり、企業の入った後の校舎の一室を住民開放教室として集える場所にしてほしいです。募集の時点でそのようにしてほしいです。一室を活用する住民の活気で地域が元気になり、交流の輪が広がればと切に思います。そのように考えて欲しいです。人口減少の中、企業が住民と共生できるような関係を築いてほしいです。未来に向けて、夢を描ける小鹿野町を造って欲しいです。そのために、住民の声を聞き、住みよい住んでいて良かったと言える小鹿野町になるよう期待します。
回答	・地域住民が集える提案をするように募集要綱に盛り込み、選定の際にはご意見を生かせるよう対応します。夢を持てるまちづくりを推進して参りたいと思います。

意見等	・旧長若小学校の利活用は旧長若中学校の利活用と切り離して考えず、全体的に、総合的に考えるべきだと思います。（中学校が廃校になって利活用を考えた時点と、小学校も現実に廃校になった時とで状況が変わっていますので・・・。） 旧中学校の広い校庭はそのまま残し、小学校跡を住宅用地整備にしたほうが、将来の長若地区、小鹿野町にとって発展的であり、“レガシー”を残すことになると思料するものです。
回答	・中学校が廃校となり利活用を考えはじめた時点と、小学校が廃校となってから考えている現在とでは状況が違う点について、おっしゃられるとおりと存じます。小学校と中学校は切り離して考えられないというご意見については、まちづくりの観点で一体的に考えてまいります。

意見等	・旧小学校校庭を空の移動革命に対応できる「離着陸場」として確保を！ 近い将来に実現が見込まれる「空の移動革命」に向けて、経済産業省・関東経済産業局では管内自治体と連携を図りながら、いわゆる空飛ぶクルマの社会実装を推進しています。7月8日時点で6都県・7市町村（含秩父市）の担当窓口が公開されています。 例えば山梨県、長野県などの取組をみると、先ず社会受容性向上を図るために様々な動画を作成したり、WEB研修会、ヘリコプターによる疑似体験等を計画しているようです。離着陸場の設定では、充電設備と機体のメンテナンス、駐車場、複数の機体が駐車可能な広いスペースも必要でしょう。 小鹿野町として考えてみると、さらなる未来では庭先のテニスコート程度の広さで離着陸できるようになるかもしれませんが、前段階としては基幹となる1ヘクタール以上（？）の発着場の他に各地域（長若・両神・三田川・倉尾）の旧小学校の校庭を利用することが良いと思います。 基幹となる離発着場については、昨年8月以来、申し上げているのは旧長若中学校校庭でしたが、宅地分譲計画がここまで進行している状況では致し方ありません。 ミューズパークや下長留の三菱粘土採掘跡もありますが、鉄道の駅がない小鹿野町にとって、長尾根丘陵のこちら側に設置することが必要と思います。町内の各地を見たところ、旧両神小学校校庭はなかなか条件が叶っていると感じました。 先日、小鹿野町の魅力発信事業がアジア・太平洋地域の優れたPR活動に贈られる「PRアワーズ・アジア太平洋2026」の公共部門で最優秀賞を受賞した記事を見ました。「終点の先、秩父の秘境へ。おがのまち」・・・素晴らしいことと思います。「空の移動革命に向けた官民協議会」が示すように、2040年（15年後？）以降「日常生活における空の移動が当たり前の社会の実現」今や夢の世界ではなく、自立・自動運転の空飛ぶクルマ実装に向けて、町としての対応をお願い申し上げます。 ※ご意見として頂いた資料も添付します。
-----	--

	空の移動革命に向けて、小鹿野町として課題の検討を！ 経済産業省と国土交通省が主導し産業界や学术界も参画する「空の移動革命に向けた官民協議会」が3月に4年ぶりにロードマップ改定案を公開しました。それによると、 ① 2027/2028年から一部地域で空飛ぶクルマの商用運航を開始（設計安全認証である型式証明取得の最終段階） ② 2030年代前半：新たな交通管理や遠隔操縦による旅客輸送の導入に向けた国の制度・体制整備、高密度な運航をサポートする運航管理システムの官民での開発 ③ 2030年代後半：自動・自律運航の一部実現、日常の移動手段として定着 ④ 2040年代以降：日常生活における自由な空の移動が当たり前の社会の実現（15年後？） と記されています 空飛ぶクルマが果たす100年に一度のモビリティ革命により、都市の渋滞緩和と交通不便な地方・離島や山間地の移動時間が短縮され、社会生活そのものが変わっていくことが想定されます。今や夢の世界でなく、池袋まで15分か20分程度で当たり前に行ける時代が来れば、文化と自然豊かな小鹿野町に移住希望の人も増えるでしょう。 ・空飛ぶクルマは離発着場の整備だけで利用出来るため、交通インフラの整備・維持費用を削減でき、救命防災や観光振興、地域経済の活性化、等々、新たな価値の創造も期待できます。 ・世界中で開発を進めている現状では解決すべき課題山積ですが、小鹿野町として実現に向けて検討する意義は大いにあると思います。 ・比較的狭い場所での離着陸が可能ですが、基幹となる離発着場はある程度の広いスペースが必要となります。旧長若中学校校庭を夢のある「空飛ぶクルマのスカイポート」として活用したら如何でしょうか？  お名前が載って いましたので削除 しています。
回答	・国のロードマップでは「日常的な空の移動」の実現は2040年代以降とされており、地方での具体的な制度整備はこれからの段階です。 一方、旧長若小学校（校舎・校庭・体育館）については、令和8年10月の公募開始、令和9年3月の本契約を目指した企業誘致を現在進めています。当エリアは立地適正化計画において居住誘導区域・都市機能誘導区域に指定されており、若者・子育て世代の定住促進や雇用創出による人口流出抑制という喫緊の課題に対応するものです。閉校したタイミングで小学校の活用に関しては複数の企業から活用要望の声もいただいておりました。今年度はそのような声はありません。時間が経過するほどにその温度感は冷めていくと見込まれ、今まさに誘致の機運が高まっています。 空の移動革命は町の将来に向けて重要なテーマと認識しており、適地の候補として上げていただいたご意見は、両神

	小学校の活用検討の段階で関係機関や隣市の動向を引き続き注視・研究してまいりたいと思います。
--	--

意見等	・うまく利用してください。
回答	・地域が活性化するような事業になるよう考えて参ります。

意見等	・長若小学校の利活用を進めてください。両神のベンチャーウイスキーのような優良企業の進出に期待します。
回答	・企業選定においては、実績などを精査して慎重審議を行う予定です。地域活性化に繋がる誘致となるよう進めたいと考えています。

意見等	・長若小学校の活用に賛成します。 長若小学校に限らず、全体を見て遊休施設はどんどん利活用を進めてください。
回答	・募集の段取りや地域の意見を踏まえつつ、丁寧に実施していきたいと考えます。可能な限りスピード感を持ち、丁寧に実施して参りたいと考えております。

意見等	・現在人口減少を見据えてかなり前から町では対策を講じてきたものが、徐々に具体化され、一流企業の誘致へ繋がるなどの成果となって現れている。地域活性化を推進して欲しい。 ・廃校の利活用については、地域の人にとっても思い入れが熱い形で残っていると思いますが、新しく生まれ変わり、再び人が集う場所になるために必要な決断だと思っています。
回答	・地域の熱い思いを受け止め、活かし、反映させるために説明会なども開催し、よりよい小鹿野町にするために尽力しております。引き続き、活性化を目指して推進して参ります。